

国産初！ジャガイモシロシストセンチュウを増やしにくいばれいしょ「北海112号」

ばれいしょ「北海112号」は、“中”のジャガイモシロシストセンチュウ（Gp）抵抗性とジャガイモシロシストセンチュウ（Gr）抵抗性をもつ。枯ちよう期は「さやか」より早い“やや早”の熟期で「さやか」並の収量である。「北海112号」をポットで栽培した場合のGp増殖率は、感受性品種に比べ10分の1程度と低いため、万が一Gpが圃場に侵入しても、感受性品種を栽培する場合に比べて増殖を抑制することができる。

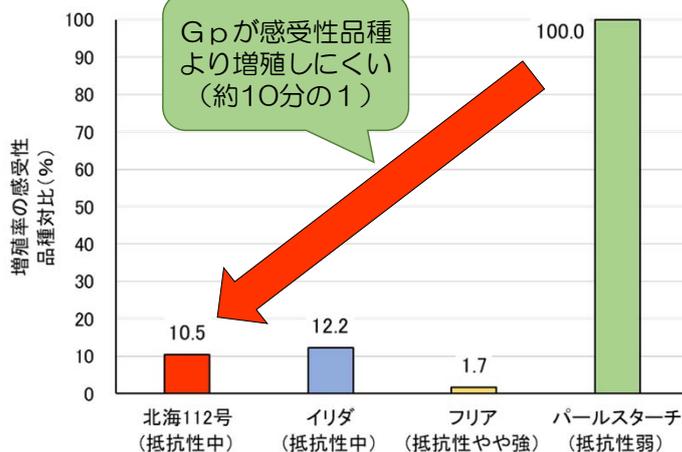
北海道農業研究センターにおける栽培特性と収量性（平成29-令和3年の平均）

「さやか」よりやや小玉で数が多い。収量性は「さやか」並

品種・系統名	枯ちよう期 (月・日)	茎長 (cm)	上いも			規格内 いも重 (kg/10a)	対照 比(%)	でん粉 価(%)	
			数 (個/株)	平均重 (g)	重 (kg/10a)				
北海112号	9.04	66	9.8	121	5,196	101	4,203	103	12.5
男爵薯(標準)	8.31	47	11.7	85	4,295	83	3,283	81	13.8
さやか(対照)	9.09	61	8.8	137	5,148	100	4,066	100	13.9

枯ちよう期は全品種・系統で枯ちよう期に達した平成29、30、令和2年の平均。
上いもは20g以上の塊茎。規格内は生食・加工用の規格で60～260gの塊茎。

「男爵薯」と同じ“円形”で「男爵薯」より目が浅い。肉色は“白”。水煮特性は「さやか」同等



※Gpシストを含むポットで各品種・系統を栽培した際のGpの増殖率。感受性品種を100とした値（北農研）。

普及見込地帯

北海道（Gp侵入リスクの高いGp発生地域の周辺地域を主とする）。当面の普及見込み面積20ha

主な特徴

- ・ Gp抵抗性が“中”で感受性品種より増殖率が約10分の1⇒Gpの発生リスクを低減できる。
- ・ 枯ちよう期は「さやか」より早く「男爵薯」より遅く、早晩性は“やや早生”。
- ・ 上いもの平均重は「さやか」よりやや軽い、数が「さやか」よりやや多いため、規格内いも重は「さやか」並。
- ・ 塊茎の形は「男爵薯」同様の“円形”。目の深さは“中”で、「男爵薯」より浅い。

栽培上の注意点

- 1) Gp発生履歴のある圃場における栽培については、国や北海道の指導に従う。
- 2) 褐色心腐が多発する場合があるので、高温・乾燥条件を避けるために適切な培土管理を行うとともに、多肥・疎植を避ける。
- 3) 葉の色むらや凹凸が強くウイルス病徴が見分けづらいので、ウイルス株の抜き取りに注意する。

※本成果は、革新的技術開発・緊急展開事業（うち先導プロジェクト）北海道畑作で新たに発生が認められた難防除病害虫ジャガイモシロシストセンチュウおよびビート西部萎黄ウイルスに対する抵抗性品種育成のための先導的技術開発（ID:16802900）の研究成果である。